

平成27年度病害虫発生予報第1号

平成27年 4月 6日
愛 知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	やや少ない	県全域	前年のコシヒカリでの穂いもちの発生量はやや少なかった	－
ムギ	うどんこ病	平年並	県全域	3月下旬現在、調査ほ場で発生を確認していない(平年並)	±
	赤かび病	やや多い	県全域	4月の降水量は多い ムギの生育はほぼ平年並	＋ ±

・防除対策

[ムギ・赤かび病]

開花盛期にトップジンM水和剤(小麦)、チルト乳剤25(小麦)、ワークアップS乳剤(麦類)などで防除しましょう。

・留意事項

イネの温湯種子消毒を行う際は、定められた処理温度、時間を守りましょう(例:60℃、10分)。微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が10℃以下だと効果が劣るので注意しましょう。消毒後は病原菌による汚染がないように管理しましょう。

イネもみ枯細菌病(苗腐敗症)やイネ苗立枯細菌病は、急激な温度差やかん水むらなどの環境変化が発生を助長するので、育苗期の温度管理などに気をつけましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	県全域	越年発病葉率はやや低い	－
				4月の降水量は多い	＋
ナシ	赤星病	多い	県全域	前年の発生量は多い 冬孢子層成熟期とナシ展葉時期が一致している 4月の降水量は多い	＋ ＋ ＋
	黒星病	やや多い	県全域	2月のりん片発病率は平年並 現地ほ場でりん片発病芽が確認された 4月の降水量は多い	± ＋ ＋
モモ	せん孔細菌病	多い	県全域	前年秋期の発生量は多い 4月の降水量は多い	＋ ＋
	灰星病 (花腐れ)	やや多い	県全域	前年の果実被害発生量は平年並 4月の降水量は多い	± ＋
	モモハモグリガ	少ない	県全域	前年夏の発生量は少ない	－

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ブドウ	黒とう病	やや多い	県全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は多い	± +
果樹共通	カメムシ類	やや少ない	県全域	チャバネアオカメムシの越冬 成虫量はやや少ない	—

・防除対策

〔ナシ・赤星病〕

スコア顆粒水和剤やフルーツセイバーなどで防除しましょう。

〔ナシ・黒星病〕

りん片発病芽や新梢基部病斑は見つけ次第除去し、スコア顆粒水和剤やフルーツセイバーなどで防除しましょう。

〔モモ・せん孔細菌病〕

発病枝は見つけ次第切り取り、マイコシールドやアタッキン水和剤などで防除しましょう。

〔モモ・灰星病〕

発病花は見つけ次第取り除き、ベルコートフロアブルやロブラール水和剤などで防除しましょう。

〔ブドウ・黒とう病〕

ジマンダイセン水和剤やデランフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

落葉果樹の生育は地域や品種によりばらつきも見られますが、4月3日現在、長久手市では、モモ（白鳳）は平年より3日、ナシ（愛宕）は3～4日開花が早い状況です。生育ステージに合わせた適期防除を心がけましょう。

フェロモントラップの誘殺状況から、ナシヒメシンクイ越冬世代の成虫発生時期は平年並と予測します。成虫はこれからモモの新梢に産卵し、幼虫が芯折れを発生させます。フェロモントラップの誘殺状況などを参考に、適期を逃さないように防除しましょう。

フジコナカイガラムシの発生が多かったカキほ場では、新梢展葉期にアプロード水和剤などで防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の降水量は多い	± +
トマト (施設)	灰色かび病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は少ない	± +
	ハモグリバエ類	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	灰色かび病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は少ない	± +
	すすかび病	多い	県全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の日照時間は少ない	± +
	ハモグリバエ類	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロアザミウマ	少ない	県全域	3月下旬の発生量は少ない	—

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キュウリ (施設)	べと病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は少ない	± +
	うどんこ病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は少ない	± +
	ミナミキイロアザミウマ	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	多い	県全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の日照時間は少ない	± +
	うどんこ病	少ない	県全域	3月下旬の発生量は少ない	-
	ハダニ類	やや多い	県全域	3月下旬の発生量はやや多い	+

・防除対策

〔タマネギ・べと病〕

気温が高く、降雨が続くと発生量が増加します。フロンサイド水和剤、プロポーズ顆粒水和剤などで防除しましょう。

〔トマト（施設）・灰色かび病〕

換気などを行って施設内の湿度を低く保つよう努めるとともに、発病部位は新たな伝染源となるので、除去しましょう。同一系統薬剤の連用を避け、ファンタジスタ顆粒水和剤、ピクシオDFなどで防除しましょう。

〔ナス（施設）・灰色かび病〕

換気などを行って施設内の湿度を低く保つよう努めるとともに、発病部位は新たな伝染源となるので、除去しましょう。同一系統薬剤の連用を避け、カンタスドライフロアブル、ポリオキシシンAL水溶剤などで防除しましょう。

〔ナス（施設）・すすかび病〕

換気などを行って施設内の湿度を低く保つよう努めましょう。同一系統薬剤の連用を避け、カンタスドライフロアブル、ポリオキシシンAL水溶剤などで防除しましょう。

〔キュウリ（施設）・べと病〕

過剰なかん水を避け、換気を十分に行い、必要以上に湿度を上げないようにしましょう。また、肥料切れに注意しましょう。同一系統薬剤の連用を避け、ベトファイター顆粒水和剤、ライメイフロアブルなどで防除しましょう。天敵を放飼している場合は、天敵への影響を考慮し農薬を選びましょう。

〔キュウリ（施設）・灰色かび病〕

換気などを行って施設内の湿度を低く保つよう努めるとともに、発病部位は新たな伝染源となるので、除去しましょう。同一系統薬剤の連用を避け、ファンベル顆粒水和剤やピクシオDFなどで防除しましょう。

〔イチゴ（施設）・灰色かび病〕

換気などを行って施設内の湿度を低く保つよう努めるとともに、発病部位は新たな伝染源となるので、除去しましょう。同一系統薬剤の連用を避け、カンタスドライフロアブル、ファンタジスタ顆粒水和剤などで防除しましょう。

〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

平成26年12月1日発表の「平成26年度病害虫発生予察注意報第5号」を参照してください。

・留意事項

施設では、気温の上昇に伴い、トマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介するタバココナジラミが増殖しやすくなります。タバココナジラミの防除を徹底し、トマト黄化葉巻病の発生を防ぎましょう。ウイルス病は、伝染環を断つことが重要です。収穫終了後は、残さを外に持ち出す前に施設を密閉してタバココナジラミを死滅させましょう。

イチゴでアザミウマ類の発生を認めています。例年、発生が増加する時期です。施設開

口部や吸気口の付近など発生しやすい場所をよく観察し、発生を認めたら速やかに防除しましょう。天敵を放飼している場合は、天敵への影響を考慮し農薬を選びましょう。

花き

・留意事項

キク（露地）では、気温の上昇に伴い白さび病やアブラムシ類が増加するので、親株床も含めて防除しましょう。

発生量及び発生時期の基準

発生量	平年並 やや多い やや少ない 多い 少ない	平年値を中心にして40%の度数に入る幅 平年並の外側20%の度数に入る幅 同上 上記三者の外側10%の度数に入る幅 同上
発生時期	平年並 やや早い やや遅い 早い 遅い	平年値を中心にして前後2日以内 平年値より3～5日早い 平年値より3～5日遅い 平年値より6日以上早い 平年値より6日以上遅い

参考

東海地方の1か月予報（名古屋地方气象台4月2日発表）

〈特に注意を要する事項〉

1週目のはじめは気温が高く、1週目中ごろから2週目にかけて気温がかなり低くなる可能性があり、気温の変動が大きい見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の降水量は、多い確率が50%です。日照時間は、少ない確率60%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、低い確率60%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：40% 平年並：30% 高い：30%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：30% 多い：50%

〔日照時間〕 少ない：60% 平年並：30% 多い：10%